

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	情報工学演習第二		
英文授業科目名	Computer Laboratory II		
開講年度	2008年度	開講年次	2年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	中山 泰一 ほか		
居室	西9-439(中山)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
授業時に各課題ごとの連絡方法を配布する	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a)主題： プログラミング演習(P演習)および必修講義科目に対応したM演習(関数論に対応), C演習(計算機通論に対応)を行う。各演習のテーマは以下の通り。 (P演習) C言語の基本的な文法を習得し, 配列, 構造体などのC言語の 基本的な要素を用いたプログラミングを学習する。 (M演習) 具体的な演習問題を通して, 複素数や正則関数の基本的な性質および複素積分や留数定理など, 関数論の基礎事項を習得する。 (C演習) 計算機の動作原理を理解するために, アセンブリ言語について学習する。MIPSプロセッサのアセンブリ言語を用いて演習を行う。</p> <p>(b)達成目標： (P演習) C言語の基本的な文法を習得し, 配列を用いた文字列操作, 構造体を用いた簡単なデータ操作がC言語によって表現できるようになることを目標とする。 (M演習) 関数論の基礎事項を理解するとともに, 複素数や正則関数の簡単な計算や留数定理を用いた複素積分の計算ができるようになることを目標にする。 (C演習) アセンブリ言語を通じて計算機の命令セット・アーキテクチャについて理解し, 計算機の基本的な動作原理を理解することを目標とする。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>基礎プログラミング及び演習</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>微分積分学第一, 微分積分学第二, コンピュータリテラシー</p>
--

電気通信大学 平成20年度シラバス

【教科書等】

対応する講義科目の教科書や参考書。
その他必要な資料は演習中に配布する。

【授業内容とその進め方】

最初に演習全体のガイダンスを行い、3つの演習(P演習：3回、M演習：4回、C演習：5回)を途中3回の相談日を変え、対応講義のスケジュールに連動させながら実施していく

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

- (a) 評価方法：
各演習とも、複数回レポートを課し、その内容により各演習の成績評価を行う。演習の総合評価は、各演習の成績を加重平均(P演習：M演習：C演習 = 3：4：5)することで行う。
- (b) 評価基準：
各演習で課される全ての課題に合格しなければ、本演習の成績は不可となる。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。演習中の時間、あるいは電子メールを利用して質問すること。

【学生へのメッセージ】

この演習は情報工学の基礎を学ぶ必修講義に対応しており、講義内容の理解をより深めるためのものである
ので、しっかり取り組んでほしい。

【その他】